県協会だより

第　39　号
平成 30 年 10 月 4 日
発　　行
鳥　　取　　県
バドミントン協会
総務本部総務部

三地域(鳥取県、ロシア沿海地方、江原道)スポーツ交流事業がロシア連邦ウラジオストクで開催されました　≪８月１日～5 日≫

山本　直樹（引率者）

三地域交流事業に初めて参加させて頂きました。この季節のウラジオストックは鳥取の気温より少し低く、また湿気が少なくとても過ごしやすかったです。

今年度は特別に中国の黒竜江省が参加し、四カ国での交流試合を行いました。内容は団体戦【男単、女単、男複、女複、混複】でした。結果は４位でしたが、１位の中国に女複が１勝を上げ、3 位のロシアにも男単、男複の勝利により２－３の惜敗でした。代表選手は全員が海外遠征が初めてでしたが、一球一球に集中して堂々とプレーしていました。

また、コートを離れれば、どの国の選手もとてもフレンドリーでしたし、６名の選手も気後れもせず、大変積極的にコミュニケーションを取っていました。最終日のレセプションの頃には、お互いの国の言葉を数語話せる程度であっても、相手の顔の表情や身振り手振りで会話が成立し、心が通じ合っている様子がよくわかりました。この三地域交流は参加した６名の選手たちにとって、競技面、その他の面において大変貴重な経験になったと思います。

◇参加者からの感想◇

杵村　莉音

ロシアに行って一番印象に残っているのは、どの国の選手も強かったことです。1 日目と 5 日目は移動時間で韓国や東京を経由したので長く感じました。2 日目と 3 日目は、試合が団体戦で行われました。2 日目は中国との試合で自分はダブルスに出ました。中国の選手は自分たちの学年より一つ上でパワーが強かったです。3 日目は韓国とロシアと戦いました。どちらもダブルスに出ました。ロシアの選手は日本人と比べて短気で、点差が離れるとおこるので勝つことができました。韓国の選手は中国と同じで一つ上と二つ上の学年がいて、体格差もあり、強かったです。全体を通して、一番最初にあげたようにどの国の選手も強かったです。ロシアに行けて良い経験ができました。この経験を生かして、臨機応変に対応していくことが大事だと思いました。

森本　蔵人

「チェミネー」この言葉から僕は韓国の人と友達になれました。ロシアに着いて数時間後には体育館に行きました。入った途端に大きな音のＢＧＭが鳴っていてとても緊張するなぁと思っていたら、コートで韓国の人やロシアの人が基礎打ちをしていて、さらに体が固まりました。自分も基礎打ちをしてみたらやっぱり緊張のせいか全然打てませんでした。でも、韓国の友達がいろいろ話してきてくれたり、あめをくれたりしてくれ、すぐになじめました。好きなスポーツを通じて国際交流ができる

というのは、とても良い機会だったと思いました。そして、待ちに待った試合。僕は負けてもいいから相手の選手から何かを学ぼうと思って試合をしていました。僕は勝てなかったけれど、相手の選手から学んだこともたくさんあったし、そのことをすぐに活かして、自分でも驚くくらい点数が取れたのでうれしかったです。試合が終わってレセプションになりました。意外とロシアの人にも韓国の人にも話が通じて、いろんな意見を交換できたりしました。特に、韓国の人と会話しました。韓国語のことやアイドルのことも話したりしました。4 日目くらいにとても仲が良くなり、同じ部屋に来たりして、もう鳥取に正直帰りたくなかったです。でも、ロシアの食べ物は僕の口には合いましたが、先輩達は口に合わず、ずっとカップラーメンが良いくらいの感じでした。このことから僕は、日本の環境の良さや水のきれいさ、治安、食事など日本の良いところを改めて感じました。これからも、この貴重な体験を活かして、バドミントンの面でも勉強の面でも日常生活の面でも頑張ります。

景山　真歩

ロシアに行って海外の選手と対戦して気づいたことは、年は同じくらいなのに背が高くて手足が長いため、スマッシュが鋭角でスピードが速いという日本の選手との違いでした。特にシングルスでは、相手のペースに持っていかれ、自分のプレーをすることができませんでした。ラリーがもつれると点を取ることができるけど、少し甘い球を出してしまうと、すぐに攻撃されて点を取られ、気づくと試合が終わっていました。鳥取県の代表として学んだこの経験を、同じ中学校の人たちや、チームを超えたいろんな人に伝え、鳥取県のバドミントンレベルの向上に少しでも貢献できたら良いと思います。

矢島　果林

私は、ロシア交流会に行き、ロシア、韓国、中国の人たちと交流しました。団体戦では、1 試合目に中国と対戦し、私はダブルスとミックスに出ました。ミックスは負けましたが、ダブルスでは勝つことができました。結果は４対１で負けてしまいました。相手のチームはとてもスマッシュが速く、スマッシュを取れない場面が多かったです。2 試合目はロシアと対戦し、私はダブルスに出て負けました。相手の攻撃におされ、守りに入ってしまい、自分たちが攻撃できなかったのが敗因だと思います。結果は３対２で負けました。3 試合目は韓国と対戦し、私はダブルスとミックスに出ました。ダブルスもミックスも負けました。ダブルスでもミックスでもよく動かされて、スマッシュも速く対応できていませんでした。ミックスでは、足を引っ張ってしまいました。結果は５対０で負けました。結果は最下位ということになってしまいましたが、いろいろの国の人と仲良くなれて良かったです。次の日には、遊園地やロシアの観光をしました。遊園地の観覧車は窓がなく、とてもこわかったです。観光はいきなり銃声が鳴ってこわかったです。ロシア交流会に行って、いろいろな経験ができて良かったです。また機会があれば、また世界の人たちと試合をしたいです。来年は総体でベスト４に入りたいし、新人戦では優勝したいです。なので、たくさん練習して、結果を残せるように頑張ります。

澤　瑠々花

何もかも初めての体験だった三地域少年スポーツ交流事業。五日間という短い期間だったが、いくつものかけがえのない思い出をつくることができた。最初は現地での体験への不安が大きかったが、交流試合など様々なプログラムを通して不安は消え、いろいろなことに積極的にチャレンジできた。特

に、現地でしかできない活動は全てが新鮮で刺激的でおもしろかった。特に印象に残っている交流試合では、他地域の選手のプレーに圧倒されたが、高レベルの技術を体感し多くのことを学ぶことができた。そして試合をきっかけに友達もできて英語やジェスチャで会話をしたり、けん玉で一緒に遊べたりして本当に楽しかった。こんな一生の思い出となる体験は、たくさんの方々の支え、協力があったからできた。心から感謝している。ありがとうございました。

山本　康介

僕は今回の三地域交流会でたくさんのことを吸収できたと思います。競技の面では、国ごとにプレースタイルが違うなと感じました。プレーに対する発想や使ってくる技などが、自分が今までやってきたものとかなり違うなと思いました。特に打つ瞬間まで何を打ってくるかわからなかった選手がいたので、自分もこれからそういうプレーを意識して行こうと思います。団体戦でロシアにシングルスで競り勝ったり、ダブルスで杵村くんと組んで勝利できたことは自信になりました。

交流の面ではどの国の選手とも積極的にコミュニケーションを取ることができました。特に韓国の選手とたくさん話しました。英語中心で話しました。簡単な会話ならしゃべれたので、とてもうれしい気持ちになりました。英語があまり通じないときでも、身振り手振りでたくさん交流しました。お互いに心が通じ合って盛り上がりました。最後は友達もできました。その他、ホテル内や観光中に簡単なロシア語は使うように心がけました。フロントや掃除の方、バスの運転手さんには特にスパシーバ（ありがとう）をよく使いました。ドキドキしましたが、笑顔が返ってきて嬉しかったです。言語が違っても心が通じるという体験は、なかなかできないとても貴重な体験でした。

ロシアで学んだことや楽しかった思い出を忘れずにこれからもバドミントンや日々の生活を頑張って行こうと思います。

盛況でした！　奥原希望選手を招いてのバドミントン教室

6 月 5 日（火）、布勢総合運動公園スポーツパークにて、日本ユニシス㈱の奥原希望選手と小宮山監督を招いてのバドミントン教室が開催されました。

平日の開催にも関わらず、遠くは境港市からジュニアも参加され、また、2 階席は観覧自由ということもあり、高校生を対象とした 1 部では約 200 人、小・中学生を対象とした 2 部では約 275 人もの方が観覧されました。主管の唐島スポーツパーク園長によると、これまでいろんな有名人を招いてスポーツ教室を開催したけど、スポーツパーク始まって以来の大入りだったとのこと。

会場には、2016 リオオリンピック銅メダルと 2017 世界選手権金メダル、そして 2018 ユーバー杯金メダルの 3 つが展示され、自由に触れることができました。奥原選手の粋な計らいに感謝です。五輪史上最も大きく重いと言われた直径 85 ㎜、500 g の銅メダルに触れる人みんなが、その感触を実感し、驚嘆されていました。

指導内容は、質問タイムとフットワークの実践を主に行われ、一流選手と直接ラケットを交えることができた生徒たちの活き活きとした眼が印象的でした。最後に、シングルスの実践トレーニングとして見せて頂いた 1（奥原）：2（県代表選手）は圧巻でした。なんと奥原選手サイドもダブルスコートなんですが、それでも、男子の強烈なスマッシュをすべてリターンされていましたから。

19 時半予定の閉会式は大幅に遅れ 20 時過ぎに。

奥原選手の今後益々のご活躍、そして熱い指導を受けた若どり達から、数年後にはここ鳥取県から第二・第三の奥原選手が排出されんことを予感させる一日でした。

最後に、講習会で発言された奥原語録を以下に紹介します。

・練習するにも、また、遊び、休憩をするにも、目的を持つこと。
・自分の頭で考えること。
・上達の最大の障害は、消極性（控えめな鳥取県人気質に対し）。
・１球多く、相手コートに返すことを意識。42 点先に取った方が勝ちなんだから。
・腕で打つのではなく、足で打つ。
・オリンピックの負けは、オリンピックでしか返せない。目標は、オリンピックック２大会で金メダル。

第 73 回国民体育大会中国ブロック大会 報告

強化本部長　松本　伸司

日頃より鳥取県バドミントン協会：強化事業にご理解・ご協力をいただき、心より感謝申し上げます。強化本部の主事業・目標は国民体育大会への参加、及び国体競技得点取得です。目標に向け各カテゴリー選手の競技力向上に努力をしてまいりました。国民体育大会に出場するためには、まず、中国ブロック大会を勝ち上がらなければなりません。強豪ひしめく中国ブロックでの予選突破は困難を要します。選手は健闘しましたが、成年女子 5 位、少年男子 4 位、少年女子 5 位と本国体への出場は得られませんでした。

ただ１種目フリー出場の成年男子が本国体に出場します。出場出来なかった種目の無念を背負って「小林寛哉」「林谷理貴」「坂口拓未」の 3 選手が奮起する事を願っております。10 月 4 日～8 日（福井県勝山市）の本国体では目標を達成するよう頑張ってまいります。なお結果に付きましては、ＨＰに掲載予定です。

第 61 回中国地区総合バドミントン選手権大会　9 月 15 日～17 日米子産業体育館で開催

事業本部長　濵橋　喜幸

日頃は協会事業にご理解ご協力をいただき、ありがとうございます。平成 30 年度は 9 月に中国地区総合バドミントン選手権大会が米子市の米子産業体育館で開催し、9 月 15 日～17 日までの 3 日間熱戦が繰り広げられました。参加人数は中国 5 県で男女併せて 211 名で、鳥取県からは、78 名が参加しました。2 日目に開会式が行われ鳥取県バドミントン協会の加藤会長が歓迎のあいさつを述べられ、小林寛哉選手の選手宣誓で開会式を閉じました。

鳥取県選手団の大会結果は男子シングルスで小林寛哉選手が優勝、混合ダブルスでは小林寛哉・岸田洋子組が準優勝、出石哲也・峰郁美組が 3 位と健闘しました。入賞しなかった選手も素晴らしいプレーを随所に見せてくれました。詳しい内容につきましては鳥取県バドミントン協会ホームページに掲載しておりますので、ご覧頂けたらと思います。今大会の実行委員会関係者の皆様には、大会の開催にご協力いただきましたことを厚くお礼申し上げます。